

JIA 長野県クラブ 37

社団法人 日本建築家協会

1999. 7. 1

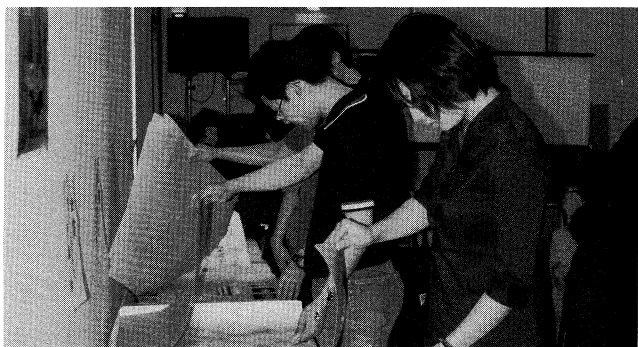
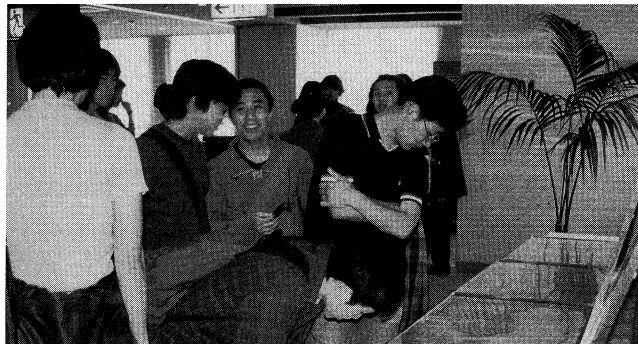


▲総会であいさつする出澤会長



▲記念講演会で講演する 建築家 妹島和世氏

99 JIA 長野県クラブ 通常総会



▲長野県学生卒業設計コンクール'99入賞作品展



「JIAと地域活動」に思う

会長 出澤 潔

恩師、山本学治先生の「君達は故郷に戻れ」と言われた言葉を受け、建築生産の仕組みを知りたくて大手建設会社に勉強の場を求めたあとも西山卯三先生を中心とする新建築家技術者集団の片隅に席を置いて建築の社会的意義を考えたりしているうちに、いつしか反対を押して故郷へ戻って18年が過ぎた。ささやかな知識がどれ程のものかも知らず、ただ若さだけの情熱は現実にとって何程のものでもなく、想いと現実是对立し続けた。建築すること、それは私にとって、ただただそこに生活する人のため、その地域のためだけであって自分のためでは決していない。そしてそのことには重い責任があり、その責任を全うするためには自己を明確にすることが求められる。人にとって好ましい環境の永続のためには、クライアントの利益よりも他を優先しなければならないこともあり、建築の社会性について理解を求めなければならない時もある。

私達は社会に対してどんなことができるのか、私にとって大きな課題であるこのことについて、会報36号で関西副会長は「JIAと地域活動」として重要な示唆と提言をされた。つまり「対外的な企画を実行し継続していくには相応なエネルギーを要する。しかし社会性のある活動は意義あるものであり、団体としての活動の効果は確実

にあると信じ、どんな活動をしたら良いのかみんなで真剣に考えよう」と呼びかけている。

私は会員一人ひとりが建築を通して社会への責任を明確にして、その責任を果たすことが私達の原点であると考えて発言してきた。しかし、組織としてそれだけでは充分でないことは言うまでもない。この度の関西副会長の具体的な提言は、クラブ事業のなかで是非実現していかなければならない事柄である。

建築家資格認定制度が近畿支部の自主認定というかたちで始動した。私は全面的に賛同するものではないが、社会に役立つ人を自分達が責任を持って推薦すること、継続教育を実施し受講が資格持続要件であることの2項は特筆すべきものとする。とりわけ継続教育制度は、現状の建築士制度の欠陥を補完するものであり、常に研鑽を積む姿勢は社会の共感を得ることであろう。

かつて私は地域サミットの中で系統的・継続的研修について地域会単独では困難なので支部活動としての企画・実施をお願いしたことがある。私達が地域社会のより良い環境の永続のため継続教育を実施し、その受講が会員資格継続の要件となり、その研修の成果をメッセージとして地域に発信することも対社会への具体的活動となるのかもしれない。



素直さ、やさしさ、美しさ

～通常総会記念講演会より～

丸山幸弘
館設計工房

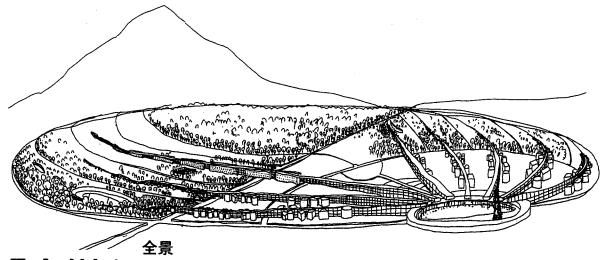
5月18日(火)通常総会記念講演において、建築家妹島和世氏の講演会が開催されました。当日の会場は席に座れない人が出るほど満員になり、あらためて妹島和世氏の人気(人気と言っては失礼かもしれませんが)の高さに驚かされました。

講演については、その期待に十分こたえた満足のいく内容であり、私は満足と共に感銘を受けました。特に建築を目指している若い人(学生)にとっては刺激的な内容であったと思います。また、私のように常にマンネリ化した日常の仕事に追われる者にとって、新鮮で建築の原点を思い出させていただいた気がします。妹島氏の近作をスライドで拝見しながら、ふと救世軍本部やスイス学生会館などのCorbusierの作品を思い出し、時にはMiesの作品のような軽やかさ、シンプルさを感じる作品を楽しませていただきました。その中で、次世代の建築のあり方を見た気がします。妹島氏の作品は個性的で様々な素材や手法を用いてはいますが、共通する思想として「素直さ」・「やさしさ」・「美しさ」があると思います。美しい建築とは、形が美しい、プランが美しい、空間が美しいなど様々ですが、何と言っても作者の心が美しくなければ作品も美しくないと思います。私のように日々邪念の中で仕事をしている者にとって「一喝」入れていただいた気がします。これから邪念が入り込んでくる時代の中で、あらためて、本音で仕事をしなければならないことを痛感し、明日への英気を与えていただいたことに感謝します。最後に一言、「拝聴できなかった人、本当に残念でした。」



大学の部

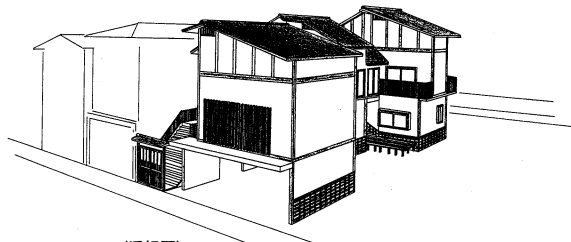
金賞



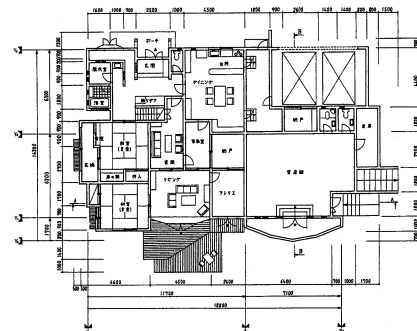
全景
「水樹」—信州大学軽井沢移転統合計画—
杉江篤司・濱隆之・脇坂奈菜(信州大学工学部)

高校の部

金賞



透視図
「高遠の町屋」 伊藤 健(飯田長姫高校)



1階平面図
「併用住宅設計図(喫茶店)」—ノ瀬友紀子(上田千曲高校)

銅賞



審査をふりかえって

審査委員長 藤森照信

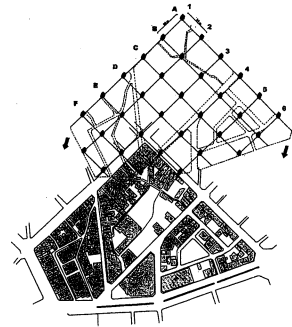
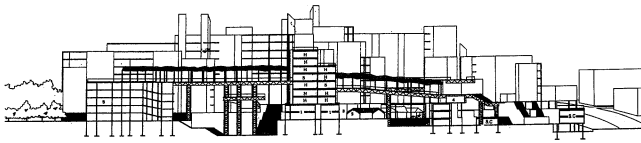
まず、高校の部から述べたい。今年もまたレベルアップが見られ、審査が楽しかった。このコンクールが始まった当初から比べると、もはや雲泥の差と言えるだろう。

金賞に輝いたのは、伊藤健君。古い城下町の町屋というテーマは、これまでの高校の部では考えられないものであり、着眼の広がり嬉しかった。平面も巧みで、図面もよくできていたが、ただ一つ問題なのは駐車場で、一階をすべて駐車場に当てるのはよくない。一軒だけならともかく、多くの町屋がこれをするとならぬと、城下町のストリートは死んでしまう。

銀賞は鎌倉裕幸・木下善文の両君で、前者のミュージ

銀賞

銅賞



H:住居
S:店舗
S.C.:ショッピングセンター
1:図書館
2:博物館
3:公民館
4:集会所
5:駐車場ビル

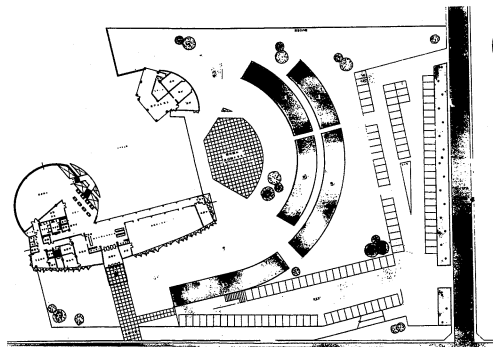
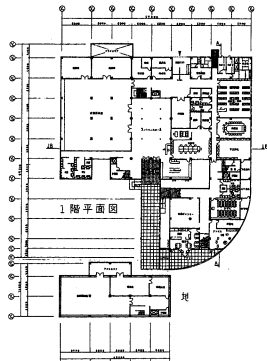
「新九龍城」 原山 賢 (信州大学工学部)

「re-lively city event, program and system」若松 義秀 (信州大学工学部)

学生卒業設計コンクール'99

銀賞

銀賞

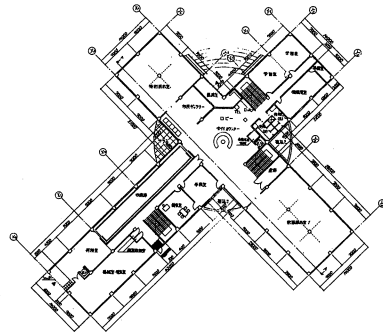
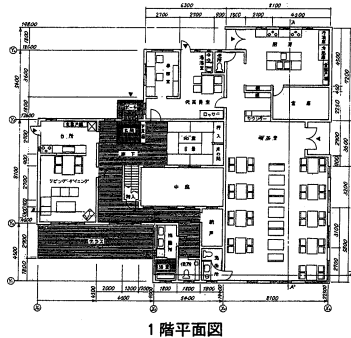


「IIDA CITY MUSEUM」 鎌倉 裕幸 (飯田長姫高校)

「musée du IIDA」 木下 善文 (飯田長姫高校)

銅賞

銅賞



「併用住宅設計図(喫茶店)」 宮崎 裕美 (上田千曲高校)

「郷土美術館設計図」 小林 瑞枝 (長野工業高校)

アム案は、立案までの手順がまことにしっかりとしており、この点こそこれまでの高校の部が弱かったところにほかならない。プランニングにおいても、有料域と無料域をちゃんと区別するなど優れていた。後者も同じくミュージアム案だが、前者と対照的にイメージを自由にふくらまし、プレゼンテーションも一部にコラージュを使うなど優れていた。

銅賞は一ノ瀬友紀子・宮崎裕美・小林瑞枝の三者で、一ノ瀬・宮崎さんの二人は喫茶店の併用住宅で取り組み、混乱しがちな平面をうまくまとめていた。小林さんの美術館は十字プランという難しい平面に取り組んだ勇気が評価された。

次に大学の部について。全体としてみると、例年に比べてやや足踏み状態の感は否めないであろう。

金賞は杉江篤司・濱隆之・脇坂奈菜の三人で、私の記憶が正しければ、共同設計で賞に輝いたのは最初であろう。信州大学を軽井沢のゴルフ場跡に統合移転するとい

うリアリティーと夢の相半ばするプロジェクトで、三人で取り組むにはふさわしい内容となっていた。水路と交通（歩行、自転車）路をすべての基本として計画をスタートしたところに、この頃には珍しい正面突破性が感じられ、しかも交通計画至上主義に落ちずに、牧歌性と散在性が保証されているのが好ましく思われた。大学キャンパスを自転車と歩行を中心とするというのは誠に現実的であり、見事な着眼といっている。

銀賞は原山賢君の香港の九龍城跡の計画で、九龍城があまりに強烈なイメージを放っており、それに位負けているのが残念である。

銅賞は若松義秀君の都市へのプロジェクトで、原型は本人も記しているようにバーナード・チュミのラ・ヴィレットの計画にあるのだが、ただ、もし実際にやってみると、現実の日本の都市のワイザツさの中に埋没してしまい、図上で示されたような効果は表れないかもしれない。

クラブインサイド

第2回幹事会

渡辺一成

5月18日、長野市のホテル国際21において開催。クラブ、本部、支部活動について各委員長、担当幹事より報告があった。建築家カタログについては、いよいよ具体的に始動し、参加申し込み受け付け、出資金の集金状況などの報告があった。議事については、同日午後に行われる通常総会、卒業設計コンクール'99表彰式、記念講演会などについての打ち合わせを行い、進行などの役割分担を決めた。最後に本年度の事業計画の協議で議事は終了した。

'99通常総会

依田政司

5月18日、長野市のホテル国際21において開催。出席正会員21名、委任状出席者30名で開会し、98年度事業報告と収支決算、99年度事業計画と収支予算を承認して無事閉会した。会場を移して行った学生卒業設計コンクール'99表彰式では、共同設計を含めて計11人を表彰した。都合により欠席された藤森審査委員長の講評を出澤会長が代読。高校の部は今年もレベルアップしたとの内容であった。記念講演会では、建築家の妹島和世氏が「自作について」と題してスライドを見せながら、氏特有のインテレクチュアルな建築論を語った。個人的には集合住宅の話が興味深かった。最後に懇親パーティを開催。多数参加され盛会であった。

(仮)建築家カタログ作成部会

松下重雄

2月24日、作成部会において「文屋」木下氏を囲んで基本事項を協議。全員一致で「良い本をつくる」ことを確認し合い、以後は編集委員会を構成して出版作業を進めることにした。4月6日、第1回編集会議で予算と日程及び参加予定者の確認を行い、4月13日の幹事会にて「承認」され実質的に可動、6月9日「文屋」木下氏と契約調印となった。編集会議は4月16日、27日、5月10日、6月1日と5回開催。

クラブアウトサイド

第1回支部総務委員会

高橋重徳

4月23日開催。99年度支部総会議案（総務委員会関連事項）の確認と役員定数の削減や財務問題などを協議した。新委員会構成と役割分担について検討し、引き継ぎを行った。また、新年度の事業決定に伴う諸問題への対応を含めた事前協議を行った。

第2回支部保存問題委員会

依田政司

5月7日開催。旧吉田五十八邸は競売により大塚家具社長が落札した。また、現在保存活動中の6件について

報告があった。今後見学会や公開について申し入れなどをしていく。99年度アーキテツ・ガーデンの銀座界隈探検隊について、また、J I A 鎌倉大会の（仮称）「文化遺産としてのモダニズム建築展」及びシンポジウムについての経過報告があった。

第11回地域サミット

出澤 潔

5月20日開催。昨年度地域サミットの経過と本年度支部活動の方針について支部長・副支部長より説明があった。各地域会の交流が深まり、地域会の現状を知ることができた。更にサミットを実施したい旨の話があった。また、アーキテツ・ガーデン、J I A 鎌倉大会への積極的参加が要請された。

'99支部通常総会

出澤 潔

5月20日開催。内容の濃い議案書とは対称的に淋しい出席人員だった。総会とはこんなものかもしれないが総会のあり方を考え直す時期か？内容については議案書参照。総会后、近畿支部の制定した建築家資格制度の説明とパネルディスカッションがあり、活発な意見続出。期待感が持てた。

全国地域会合同会議

出澤 潔

5月25日開催。近畿支部と静岡地域会の建築家資格制度をメインテーマに意見交換した。実施に向けて始動した近畿支部の制度はおおむね好感を持って受け入れられ、中田専務理事から是非成功して欲しい旨の発言があった。また、地域活動における顕彰制度の設立について説明があった。

アーキテツ・ガーデン'99地域会議

関 邦 則

6月4日、「銀座建築探検写真展」と「ふるさとのまちなみ展」会場となる京橋のINAXアーキプラザ6階に集合。展示計画に合わせて展示内容を地域会毎に検討する。まちなみの現状や将来への課題などを紹介する。アーキテツ・ガーデンは「銀座建築祭」と銘打つ。

- 新入会員紹介 -

賛助会員

(株)コーティングコーポレーション (長野市)



J I A
J I A 長野県クラブ

編集人 関 邦則
発行人 出澤 潔
発行所 J I A 長野県クラブ
長野市南長野妻科
426-1
長野県建築士会館内
TEL 026 (232) 3897
FAX 026 (232) 5303

作成 新建新聞社

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。